

【研究ノート】餅ヶ崎遺跡における北白川 C 式系土器出土の背景 － (1) 近畿・東海地方中期末～後期前半における石器組成－

加納 実 (千葉市立加曽利貝塚博物館)

はじめに

千葉市若葉区餅ヶ崎遺跡 (千葉市教育委員会ほか 2019) から出土した近畿地方に祖型を求めることのできる北白川 C 式系土器群について、前号において資料紹介を行った (加納 2020、参考資料 1・2)。

そこでは、土器群の編年学的位置づけや具体的な系譜への言及はひかえるとともに、異系統土器群の遠隔地域における出土の背景等にも踏み込むことは行わなかった。

したがって今回、ここで標記の題を設け再論を試みはじめることにより、資料提供の一翼を担った者としての責務としておきたい。

問題意識

後期初頭の称名寺式土器のもっとも古い部分、初期称名寺式などと呼称される土器群については、近畿地方に祖型を求めることができる。

これらの土器群の研究を牽引する石井寛は、例えば、「西方からの人間の「移入」は、社会の活性化という面でなく、住居というハードの面においても、大きな変革をもたらせることなく経過し、第 3 段階での加曽利 E 式との顕著な融合へ進む」 (石井 2014)、「在地集団による取捨選択が中津系土器群の採用過程で作用した」 (石井 2015)、「中津系の集団が一方的に土器群を移入したのではなく、当初より在地集団の意向が大きく関わっている」 (石井 2015)、「中津系土器群の「進入」は一方的な西方からの「浸入」としてではなく、在地集団との関わり合いのなかで展開され、その結果として各地で中津系土器群の変容が行われた」 (石井 2015) などと、土器群の詳細な分析の結果から、その背後の社会への言及を重ねている。

一方、当該土器群の胎土分析においては、「型式学的には「西から来た」と見紛うような稲ヶ原遺跡出土の北白川 C 式土器や緑川東遺跡出土の中津式 (初期称名寺式) 土器も、胎土は横浜市・国立市を含む南西関東周辺の特徴を示すものであった」 (建石 2016) とされるなど、当該期土器群の研究は一筋縄にはいかないことを痛感しているところでもある。

このような、諸氏によるダイナミックな研究の末席に参入すべく、当該期における遺構・遺物等に顕れるあらゆる要素を、関東地方／近畿・東海地方のいう二項の項目だてのもと相対化し、その差異をあぶり出すことを本研究の目的としたい。

本稿での作業

本稿では近畿・東海地方における当該期前後の石器組成に言及したい。東日本の中期末の石器組成については、今村啓爾による三角グラフの分析がある (今村 1989)。本稿での詳細な紹介は避けるが、「群集する貯蔵穴の分布と－略－打製石斧の使用地域は、丁度反対の分布を示している。中期中葉、後葉における群集する貯蔵穴は、東北地方から新潟、茨城、栃木、群馬東部、千葉の各県に分布しているが、大

量の打製石斧使用は、中部高地と東京、神奈川、埼玉、群馬、千葉南部に広がっている」、「群集貯蔵穴と打製石斧の空間的にも時間的にも対照的な分布を、堅果類依存と根茎類依存の差として理解できる」（今村 1989）とし、この見解はその後においても追認している（今村 1999）。本稿では、今村の視点・成果を援用し、関西方面の石器組成について資料操作を行ってみたい。

なお本稿では石器組成の分析として機械的に数字を操作するが、機能・形態を視座に据えた研究（山本 2002）、使用痕からの分析（板垣 2019）、採集に関する民俗学的な研究（野本 2020）を睨みつつのものである。とりわけ「近畿北東部における打製石斧の使用状況はバラエティに富み、この石器の普及と特定の生業活動の普及を同一視することはできない」（板垣 2019）、「食料獲得戦略の地域的特性として社会変動論などとはいったん切り離して評価し、列島のなかで相対化させていくべき」（板垣 2019）などの言及が筆者への戒めとして、肩に重くのしかかっていることを申し添えておきたい。

作業の方法

分析に際しては、関西縄文文化研究会による優れた集成的研究（関西縄文文化研究会 2003・2004 以下、資料集と略す）がすでに公表されていることから、これらをテキストとしたい。

分析の対象とした府県は、北白川 C 式土器が主体的に分布する兵庫県・大阪府・和歌山県・京都府・滋賀県・奈良県とし、併せてこれら府県域の周辺、即ち三重県・福井県・愛知県・岐阜県をも対象とした。本稿で謂う「北白川 C 式土器が主体的に分布」する地域とは、当該期の土器群の構成比において北白川 C 式土器が卓越する地域のことである。

分析の対象とした石器は、今村による分析（今村 1989）、及び今村の研究を本県において継承した西野による分析（西野 1999）との将来的な比較を行い得るよう、これらの分析に準拠し、打製石斧・磨石類・石鏃とした。磨石類としたものは資料集における「磨石 敲石・凹石」である。なお蛇足ではあるが、当該期の大集落である市原市武士遺跡における中期終末から後期中葉における石器組成について別稿に示しておいた（加納 2021）。

対象とした遺跡は、資料集に示された各府県の一覧表において、上述の石器類の出土数が具体的に示されているものであり、出土していることのみが示されている「○」（丸）は対象としていない。出土数が空欄のものは出土数 0（ゼロ）と捉えて分析の対象とした。

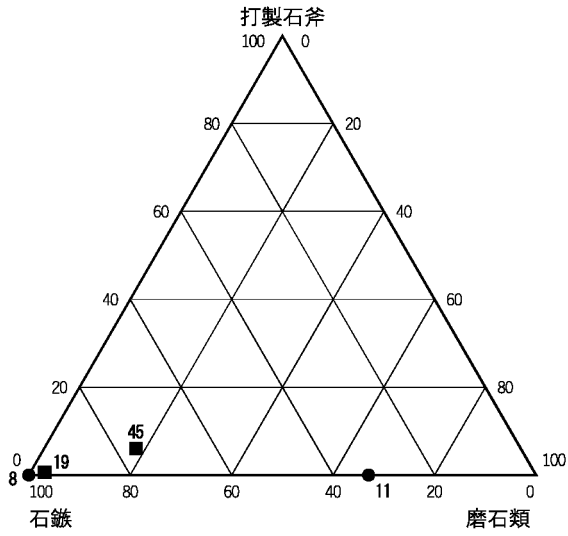
分析の対象となる時間幅については、概ね中期から後期前半堀之内式期に併行すると考えられるものに限定した。このうち中期については、概ね北白川 C 式に併行するものを「後半期」とし、それ以前を「前半期」として 2 種類に分離した。本来ならば原典における土器の拓影図・実測図で厳密な確認すべきであるが、物理的に不可能であることから、資料集の「時期」項目を参考にし、本稿での一覧表（表 1・6）においてもこれを再録しておいた。

なお、三角グラフ（図 1）におけるドットの根拠となる数値は一覧表（表 1・2）において示しておいた。三角グラフ（図 1）におけるドットは、

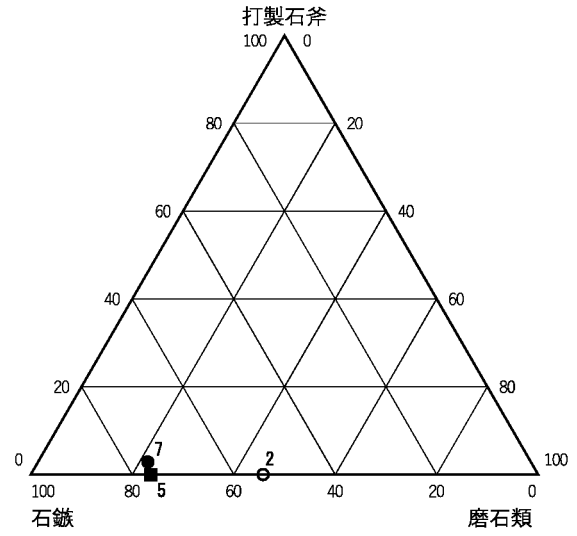
- 中期前半期 ●
- 中期後半期 ○
- 後期初頭・前半 ■

である。

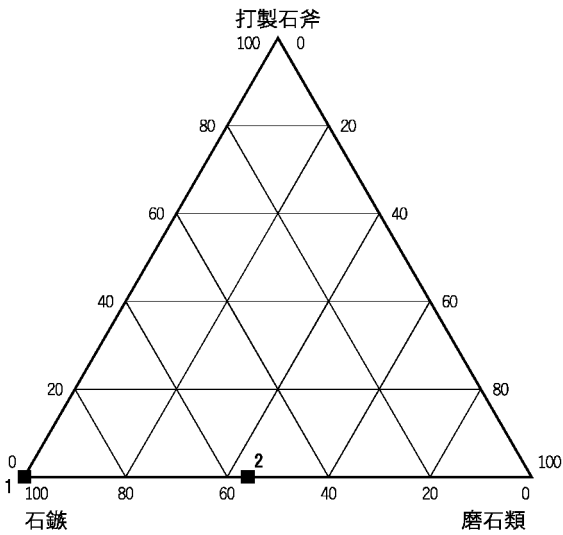
1. 兵庫県



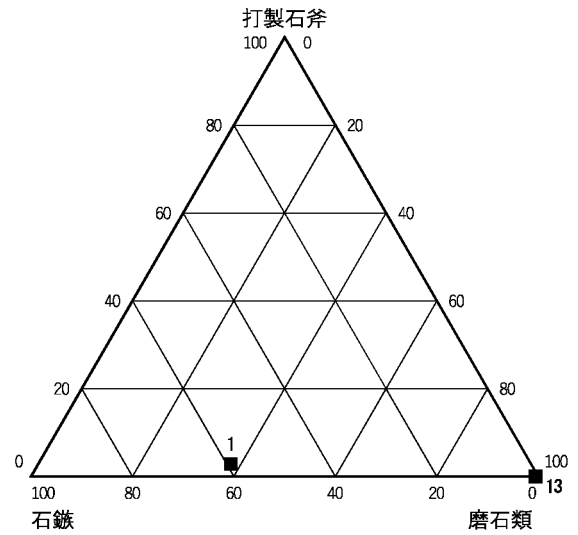
2. 大阪府



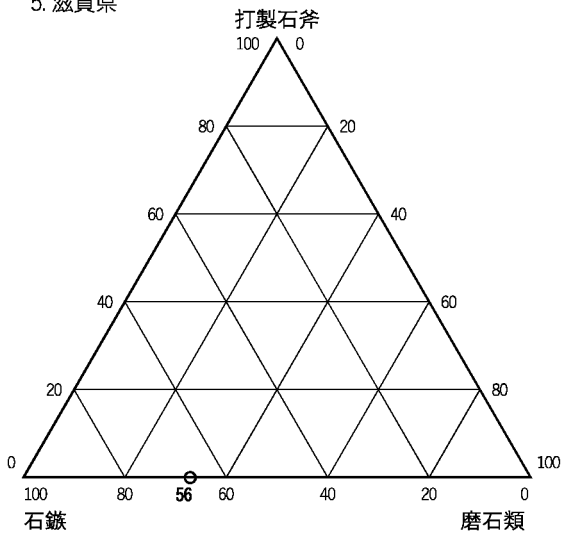
3. 和歌山県



4. 京都府



5. 滋賀県



6. 奈良県

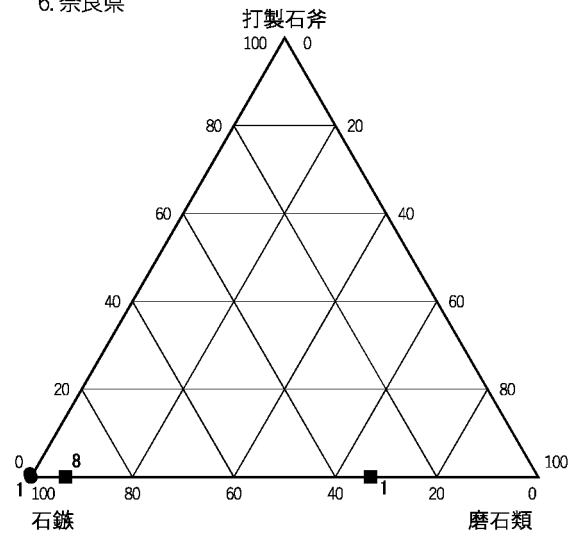
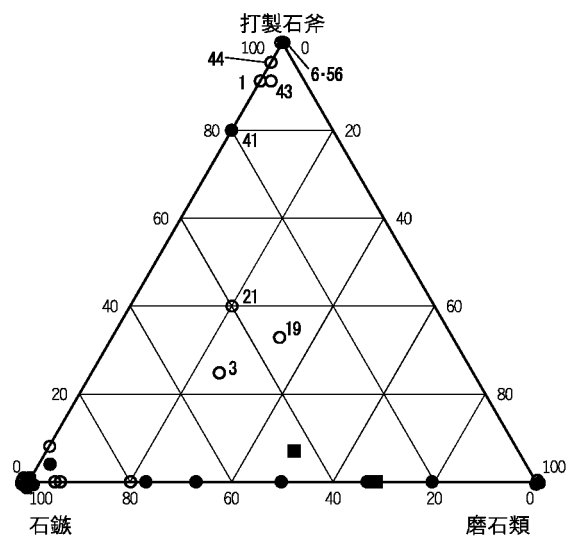
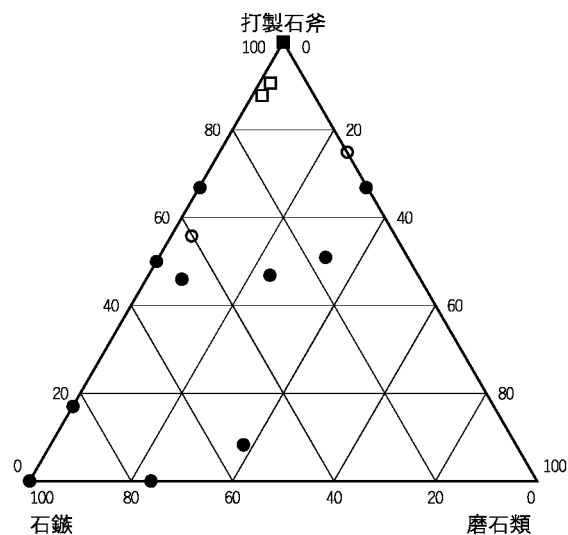


図1 三角グラフ 中期・後期：北白川C式土器主体の分布府県域

2. 愛知県



4. 岐阜県 11



6. 岐阜県 IV

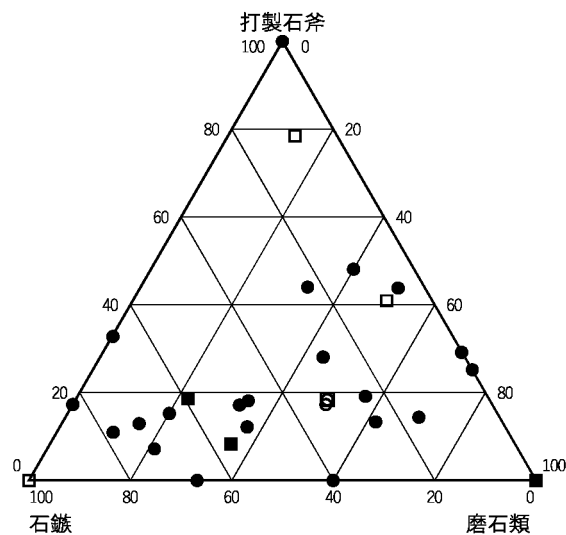


図2 三角グラフ 中期・後期：周辺県域

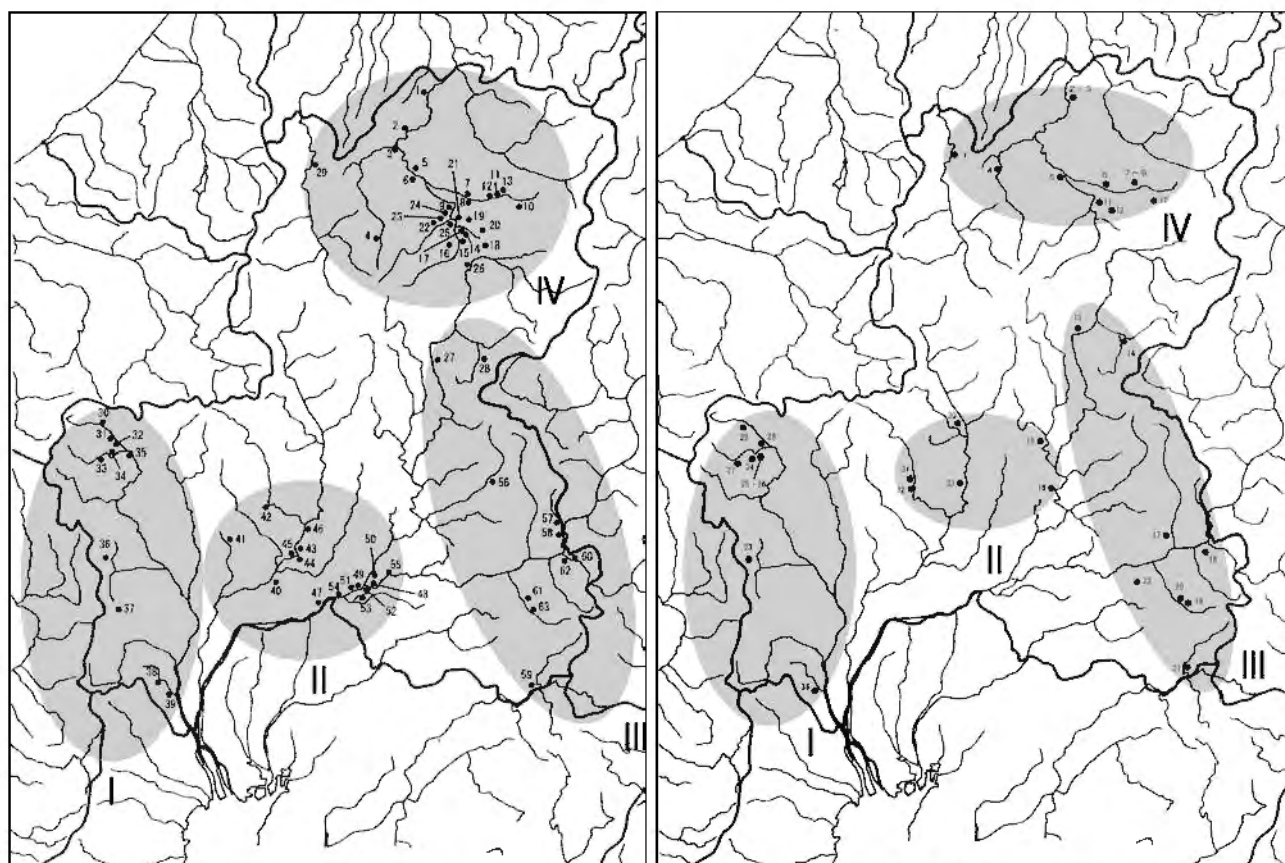


図3 岐阜県域における地域区分（左：中期 右：後期）（関西縄文文化研究会 2003・2004 を改変）

構成比率が近似するものについては、三角グラフ中でのドットが重複してしまうことから、ドットを若干ずらして図示していることを諒とされたい。

中期における和歌山県・京都府・三重県、後期における滋賀県・三重県・福井県・愛知県は、本稿の対象とし得る遺跡を抽出することはできなかった。

最後に、本稿におけるデータの再整理・一覧表作成・三角グラフの作成に際しては、石渡麻希氏からの全面的な協力があつた。深く感謝申し上げたい。

北白川C式分布圏における中期・後期の様相

北白川C式土器が主体的に分布する兵庫県・大阪府・和歌山県・京都府・滋賀県・奈良県の結果から、いずれも打製石斧の構成比率が低いことが一瞥して理解できる。

無論この結果は、テキストとして用いた資料集に数値が明記されているものに限ったところであることから、資料集刊行（2003・2004年）以後の良好な資料増加を鑑みれば、脆弱な基盤の上の結果であるといわざるを得ないが、傾向として捉えることに大きな齟齬はないであろう。なお、中期前半期／中期後半期（北白川C式期）／後期前半での差異については何ら言及し得なかった。

出土石器数が具体的に記載された遺跡等を対象に絞り込まざるを得なかったことにより、分析対象となる遺跡が限定されることになってしまったが、北白川C式の主体的分布圏における中期から後期前半での石器組成について、打製石斧の構成比率が低いことを指摘することができるであろう。

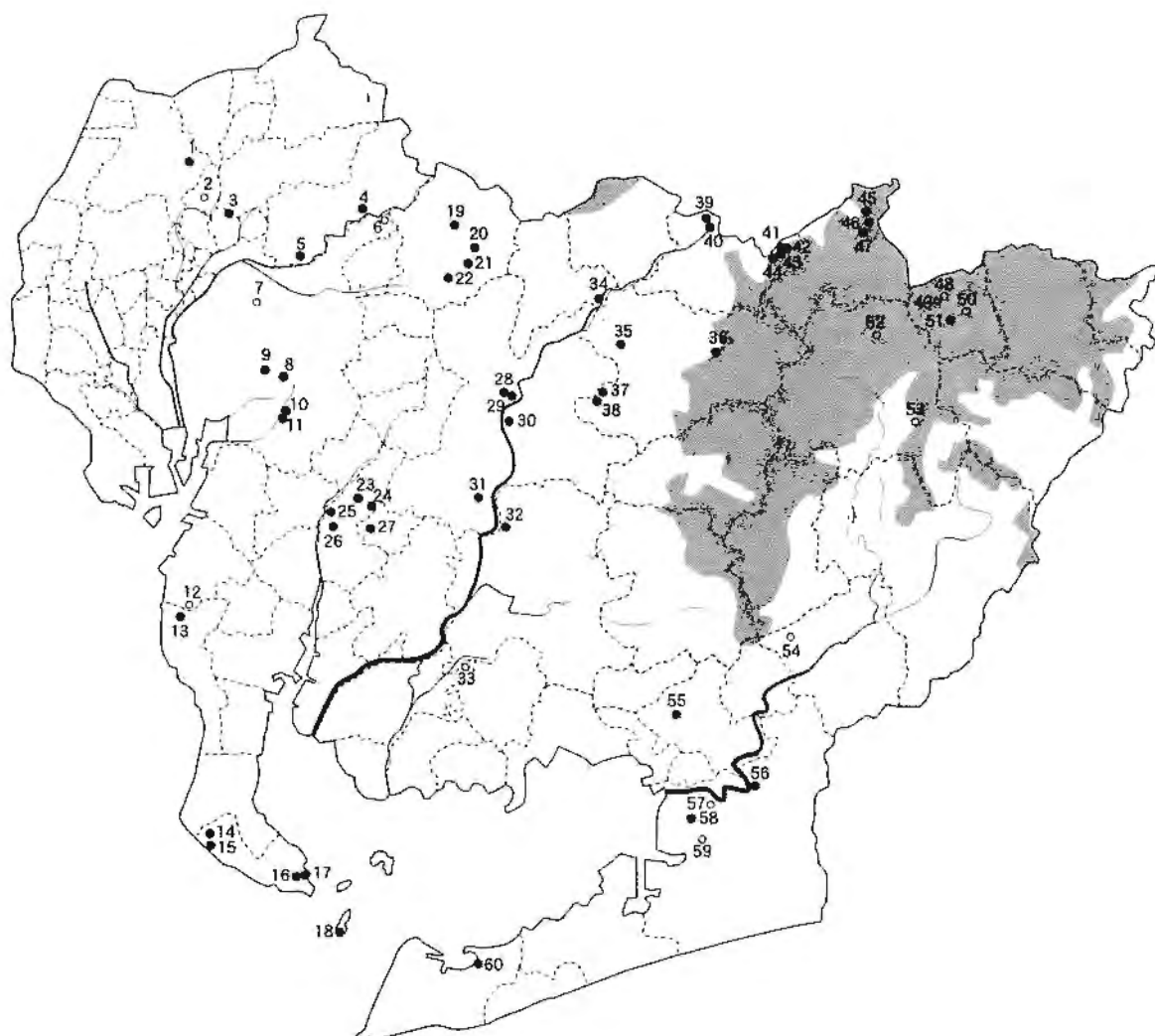


図 4 愛知県域の遺跡分布（中期）（関西縄文文化研究会 2003 を改変）

周辺県域における中期・後期の様相

北白川 C 式分布圏における様相、すなわち打製石斧の構成比率が低いことを相対的に示すために、周辺県域の様相についても、同様の方法により分析し、三角グラフに示した。

ここでは北白川 C 式分布圏に比して対象となる遺跡数等が多いことから、後期については、概ね後期初頭（中津式期・福田 K2 式期）／概ね後期前半（北白川上層式期）に分離しておいた。三角グラフ（図 2）におけるドットは、

- 中期前半期 ●
- 中期後半期 ○
- 後期初頭 ■
- 後期前半 □

とした。三角グラフ（図 2）におけるドットの根拠となる数値は一覧表（表 3～表 6）において示しておいたが、図が煩雑になることから、図中に遺跡番号を示すことは避けた。

また岐阜県域においては対象となる遺跡数が多いことから、便宜的に地域をⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳに分割して三角グラフを示したが、その地域別は図 3 及び表 4・6 に示しておいた。

さて、この周辺県域の結果から、周辺県域においては、必ずしも打製石斧の構成比率の低さが貫徹されていないことを捉えることができよう。

なお、図 2 愛知県域（中期）において、打製石斧の構成比が 20%～40%を示す一群（3・19・21）、概ね 80%以上を示す一群（1・6・41・43・44・56）については、念のため分布図（図 4）に示しておいた。

（つづく）

引用・参考文献

- 石井 寛 2014「縄文中期から後期への推移に関する一考察－横浜市港北 N.T. 遺跡群を対象に－」『横浜市歴史博物館 紀要』VOL.18
- 石井 寛 2015「稲ヶ原遺跡出土土器群が提起する諸問題」『横浜市歴史博物館 紀要』VOL.19
- 石井 寛 2016「関東南西部の称名寺式土器」『称名寺貝塚と称名寺式土器』横浜市歴史博物館
- 泉 拓良 1982「西段洪縄文土器再考－近畿地方縄文中期後半を中心に－」『考古学論考 小林行雄博士古希記念論文集』平凡社
- 泉 拓良ほか 1985「土器」「中期末縄文土器の分析」『京都大学埋蔵文化財調査報告Ⅲ－北白川追分町縄文遺跡の調査－』京都大学埋蔵文化財調査センター
- 泉 拓良 1990「近畿地方の中期末最終末土器群」『調査研究集録』第 7 冊 横浜市埋蔵文化財センター
- 板垣優河 2019「縄文時代の植物食料化活動－近畿北東部の石器使用状況に着目して－」『古文化談叢』第 83 集 九州古文化研究会
- 今村啓爾 1989「群集貯蔵穴と打製石斧」『考古学と民族誌』渡辺仁教授古希記念論文集 六興出版
- 今村啓爾 1999『縄文時代の実像を求めて』吉川弘文館
- 今村啓爾 2002『縄文の豊かさと限界』日本史リブレット 山川出版社
- 今村啓爾 2017『縄文文化－入門から展望へ－』考古調査ハンドブック 17 ニューサイエンス社
- 加納 実 2013「中期末～後期初頭における東西関係について－土器群の併行関係を巡る諸問題を中心に－」『「完新世の気候変動と縄文文化の変化」公開シンポジウム予稿集』公開シンポジウム「関東信越地方における中期／後期変動期」実行委員会
- 加納 実 2016「関東東部の中期末最終末から後期初頭の土器群」『称名寺貝塚と称名寺式土器』横浜市歴史博物館
- 加納 実 2020「【資料紹介】千葉市若葉区餅ヶ崎遺跡における異質な土器群－近畿地方北白川 C 式系土器群の紹介を中心に－」『貝塚博物館紀要』第 46 号 千葉市立加曽利貝塚博物館
- 加納 実 2021「市原市武士遺跡の調査成果－補遺－」『研究連絡誌』第 84 号（公財）千葉県教育振興財団
- 関西縄文文化研究会 2002『第 4 回関西縄文文化研究会 縄文時代の石器－関西の縄文草創期・早期－』
- 関西縄文文化研究会 2003『第 5 回関西縄文文化研究会 縄文時代の石器Ⅱ－関西の縄文前期・中期－』
- 関西縄文文化研究会 2004『第 6 回関西縄文文化研究会 縄文時代の石器Ⅲ－関西の縄文後期・晩期－』
- 関西縄文文化研究会 2005『関西縄文時代における石器・集落の諸様相 関西縄文論集 2』関西縄文文化研究会編 六一書房
- 大工原 豊 長田友也 建石 徹編『縄文石器提要』考古調査ハンドブック 20 ニューサイエンス社

建石 徹 2016「西から来た土器をさがす」『称名寺式貝塚－土器とイルカと縄文人－』横浜市歴史博物館

千葉市教育委員会 千葉市埋蔵文化財調査センター 2019『千葉市餅ヶ崎遺跡－千葉市動物公園第Ⅰ期工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』

富井 真 2008「北白川 C 式土器」『総覧 縄文式土器』アム・プロモーション

西野雅人 1999「縄文中期の大型貝塚と生産活動－有吉北貝塚の分析結果－」『千葉県文化財センター 研究紀要』19 財団法人千葉県文化財センター

野本寛一 2020『採集民俗論』昭和堂

山本直人 2002『縄文時代の植物採集活動－野生根茎類食料化の民俗考古学的研究－』溪水社

表 1 中期：北白川 C 式土器主体の分布府県域

府県名	時期	No.	遺跡名	時 期	石 鏃	磨石類	打製石斧	計	割 合		
									石 鏃	磨石類	打製石斧
兵庫	前半期	8	杉ヶ沢 第13地点	船元Ⅱ式	16	0	0	16	100%	0%	0%
兵庫	前半期	11	熊野部	黒木Ⅱ式、曾利Ⅰ式	2	4	0	6	33%	67%	0%
大阪	後半期	2	野畑	北白川C式Ⅰ・Ⅱ期（星田式）	66	57	0	123	54%	46%	0%
大阪	前半期	7	讃良川	船元Ⅰ式～北白川C式	48	14	2	64	75%	22%	3%
奈良	前半期	1	菅原東第257-2次調査	中期	15	0	0	15	100%	0%	0%
奈良	前半期	1	菅原東第293次調査	中期	8	0	0	8	100%	0%	0%
滋賀	後半期	56	塚之越	北白川C式	8	4	0	12	67%	33%	0%

表 2 後期：北白川 C 式土器主体の分布府県域

府県名	No.	遺跡名	時 期	石 鏃	磨石類	打製石斧	計	割 合		
								石 鏃	磨石類	打製石斧
兵庫	19	小路頃才ノ木	中期後葉（中津式・福田KⅡ式）	121	4	1	126	96%	3%	1%
兵庫	45	中の原	中期後葉（中津式）	13	3	1	17	76%	18%	6%
大阪	5	野畑	中津式～福田KⅡ式期	16	5	0	21	76%	24%	0%
和歌山	1	芋生小島	中津式	1	0	0	1	100%	0%	0%
和歌山	2	市脇	中津式	5	4	0	9	56%	44%	0%
京都	1	浜詰	北白川C～福田KⅡ	58	38	3	99	59%	38%	3%
京都	13	朝日寺	中津（古）	0	6	0	6	0%	100%	0%
奈良	1	宝来遺跡	中津式	1	2	0	3	33%	67%	0%
奈良	8	布留遺跡 堂垣内地区	中津式・福田KⅡ主体（少量の船元式）	364	26	0	390	93%	7%	0%

表 3 中期：周辺県域（福井県・愛知県）

府県名	時期	No.	遺跡名	時 期	石 鏃	磨石類	打製石斧	計	割 合		
									石 鏃	磨石類	打製石斧
福井	前半期	1	古宮	中期前葉（鷹島・船元Ⅱ・新保・新崎）	10	55	4	69	14%	80%	6%
福井	前半期	6	栃川	中期中葉～後葉（古府・咲畑・黒木Ⅱ・大杉谷）	15	8	22	45	33%	18%	49%
福井	前半期	9	上平吹	中期後葉（大杉谷）	21	32	14	67	31%	48%	21%
福井	前半期	12	寺内川	中期前葉～後葉（新保・新崎・船元Ⅰ～Ⅲ・黒木Ⅱ）	0	12	0	12	0%	100%	0%
愛知	後半期	1	佐野遺跡	中期後葉（山の神式）	1	0	11	12	8%	0%	92%
愛知	後半期	3	堤下遺跡	中期後葉（取組式～山の神式）	2	1	1	4	50%	25%	25%
愛知	後半期	4	神領遺跡	中期後葉（取組式～山の神式）	4	0	0	4	100%	0%	0%
愛知	前半期	5	松河戸遺跡	後期前半以前（中期か）	42	1	2	45	93%	2%	4%
愛知	後半期	6	白鳥遺跡	中期後葉	0	0	1	1	0%	0%	100%
愛知	後半期	9	瑞穂遺跡	中期後葉（山の神式）	2	0	0	2	100%	0%	0%
愛知	前半期	13	石瀬遺跡	中期前葉・後葉	38	0	0	38	100%	0%	0%
愛知	前半期	14	林ノ峰貝塚	中期前葉・中期中葉～後葉（北屋敷式～咲畑式）	6	2	0	8	75%	25%	0%
愛知	後半期	14	林ノ峰貝塚	中期後葉（林ノ峰Ⅰ式）	4	0	0	4	100%	0%	0%
愛知	前半期	15	清水ノ上貝塚	中期	6	6	0	12	50%	50%	0%

【研究ノート】餅ヶ崎遺跡における北白川C式系土器出土の背景

－（１）近畿・東海地方中期末～後期前半における石器組成－

加納 実

府県名	時期	No.	遺跡名	時 期	石 鏃	磨石類	打製石斧	計	割 合		
									石 鏃	磨石類	打製石斧
愛知	前半期	17	咲畑貝塚	中期後半	13	0	0	13	100%	0%	0%
愛知	前半期	18	南風ヶ崎遺跡	中期中葉・後葉	0	1	0	1	0%	100%	0%
愛知	後半期	19	品野西遺跡	中期後葉	1	1	1	3	33%	33%	33%
愛知	後半期	20	長谷口遺跡	中期後葉（取組式～山の神式）	4	1	0	5	80%	20%	0%
愛知	後半期	21	惣作・鐘場遺跡	中期後葉（取組式～山の神式）	2	1	2	5	40%	20%	40%
愛知	後半期	22	吉野遺跡	中期後葉（山の神式）	0	1	0	1	0%	100%	0%
愛知	前半期	23	芋川遺跡	中期後半（咲畑式～曾利Ⅳ式併行）	12	0	0	12	100%	0%	0%
愛知	前半期	24	茶煎坊遺跡	中期後半	1	2	0	3	33%	67%	0%
愛知	後半期	26	山の神遺跡	中期末	12	0	1	13	92%	0%	8%
愛知	後半期	27	間瀬口遺跡	中期後葉（取組式～神明式）	19	1	0	20	95%	5%	0%
愛知	前半期	28	万加田遺跡	中期後半（咲畑式～山の神式）	20	6	0	26	77%	23%	0%
愛知	後半期	29	船塚遺跡	中期後葉（中富Ⅱ式～山の神式）	4	0	0	4	100%	0%	0%
愛知	後半期	30	曾根遺跡	中期後葉（神明式or取組式）	0	1	0	1	0%	100%	0%
愛知	後半期	31	神明遺跡	中期後葉（取組式）	17	1	0	18	94%	6%	0%
愛知	後半期	32	生平遺跡	中期後葉（取組式）	2	0	0	2	100%	0%	0%
愛知	前半期	41	万場垣内遺跡	中期後半（加曾利E式併行）	4	0	16	20	20%	0%	80%
愛知	後半期	43	久保田遺跡	中期後葉（加曾利E併行）主体	3	1	49	53	6%	2%	92%
愛知	後半期	44	前畑遺跡	中期後葉（加曾利E併行）	1	0	23	24	4%	0%	96%
愛知	前半期	56	洗嶋遺跡	中期前葉～中葉（五領ヶ台式～勝坂式併行）	0	0	1	1	0%	0%	100%

表 4 中期：周辺県域（岐阜県）

府県名	時期	No.	遺跡名	時 期	石 鏃	磨石類	打製石斧	計	割 合			地域
									石 鏃	磨石類	打製石斧	
岐阜	前半期	2	堂ノ前遺跡	上山田式・古府式・古串田新式・曾利Ⅱ式・曾利Ⅱまたは曾利Ⅲ式・新道式または篠内Ⅰ式・中期中葉前半	21	90	18	129	16%	70%	14%	Ⅳ
岐阜	前半期	3	下田遺跡	加曾利E2式	2	0	1	3	67%	0%	33%	Ⅳ
岐阜	前半期	4	門端縄文遺跡	中期	0	0	1	1	0%	0%	100%	Ⅳ
岐阜	前半期	5	岡前遺跡	古府式・中期中葉・中期後半	9	21	7	37	24%	57%	19%	Ⅳ
岐阜	前半期	6	中野山越遺跡	曾利Ⅱ～Ⅲ式・曾利Ⅲ式・曾利Ⅲ～Ⅳ式・井戸尻Ⅲ式・船元ⅢA式・中期中葉	27	43	27	97	28%	44%	28%	Ⅳ
岐阜	前半期	7	森ノ木遺跡	中期後葉	2	20	17	39	5%	51%	44%	Ⅳ
岐阜	前半期	8	荒城神社遺跡	中期後葉・中期後半	0	6	2	8	0%	75%	25%	Ⅳ
岐阜	前半期	10	岩垣内遺跡	中期後葉	144	31	27	202	71%	15%	13%	Ⅳ
岐阜	前半期	12	牛垣内遺跡	中期後葉・新崎Ⅱ式・串田新Ⅰ式	36	11	8	55	65%	20%	15%	Ⅳ
岐阜	前半期	13	西田遺跡	中期後半	7	1	1	9	78%	11%	11%	Ⅳ
岐阜	前半期	14	ツルネ遺跡	勝坂式・加曾利EⅡ式・船元式・船元Ⅲ式・上山田式・貉沢式	30	21	11	62	48%	34%	18%	Ⅳ
岐阜	前半期	15	糠塚遺跡	中期後半	6	3	0	9	67%	33%	0%	Ⅳ
岐阜	前半期	16	善店寺遺跡	中期	10	0	2	12	83%	0%	17%	Ⅳ
岐阜	前半期	17	向畑遺跡	船元、井戸尻式・井戸尻Ⅱ式・船元Ⅲ式・新崎式・中期前葉	21	6	2	29	72%	21%	7%	Ⅳ
岐阜	前半期	18	寺東遺跡	中期・曾利Ⅲ式	9	13	17	39	23%	33%	44%	Ⅳ
岐阜	後半期	18	寺東遺跡	曾利Ⅳ式	2	3	1	6	33%	50%	17%	Ⅳ
岐阜	前半期	19	垣内遺跡	中期後葉・加曾利E3式・曾利Ⅰ式・曾利Ⅱ式・曾利Ⅲ式・曾利Ⅳ式・中期中葉・中期後半	63	208	243	514	12%	40%	47%	Ⅳ
岐阜	前半期	20	無手無冠農場遺跡	中期後半	2	5	1	8	25%	63%	13%	Ⅳ
岐阜	前半期	24	上切平野遺跡	曾利Ⅱ～Ⅲ式	9	6	3	18	50%	33%	17%	Ⅳ
岐阜	前半期	25	中山縄文遺跡	上山田式・中期	2	3	0	5	40%	60%	0%	Ⅳ
岐阜	前半期	26	堂之上遺跡	曾利Ⅱ式・曾利Ⅲ式・曾利Ⅳ式・中期・中期後半・勝坂式・里木Ⅱ式・梨久保式・31号北白川下層Ⅱ式・井戸尻Ⅲ式・30号井戸尻Ⅲ式	153	112	36	301	51%	37%	12%	Ⅳ
岐阜	後半期	26	堂之上遺跡	曾利Ⅳ～Ⅴ式・加曾利E3式・加曾利E4式・中期末・中期末期・中期最末期・中期最終末	116	181	67	364	32%	50%	18%	Ⅳ
岐阜	前半期	27	飛騨桜洞沖田	中期後半	0	6	1	7	0%	86%	14%	Ⅲ
岐阜	前半期	28	湯屋遺跡	中期	5	4	2	11	45%	36%	18%	Ⅲ
岐阜	後半期	30	塚遺跡	中期末	11	4	4	19	58%	21%	21%	Ⅰ
岐阜	前半期	31	山手宮前遺跡	中期・中期後葉	23	1	2	26	88%	4%	8%	Ⅰ
岐阜	前半期	32	上原遺跡	中期後半	0	0	1	1	0%	0%	100%	Ⅰ

2021 年 3 月

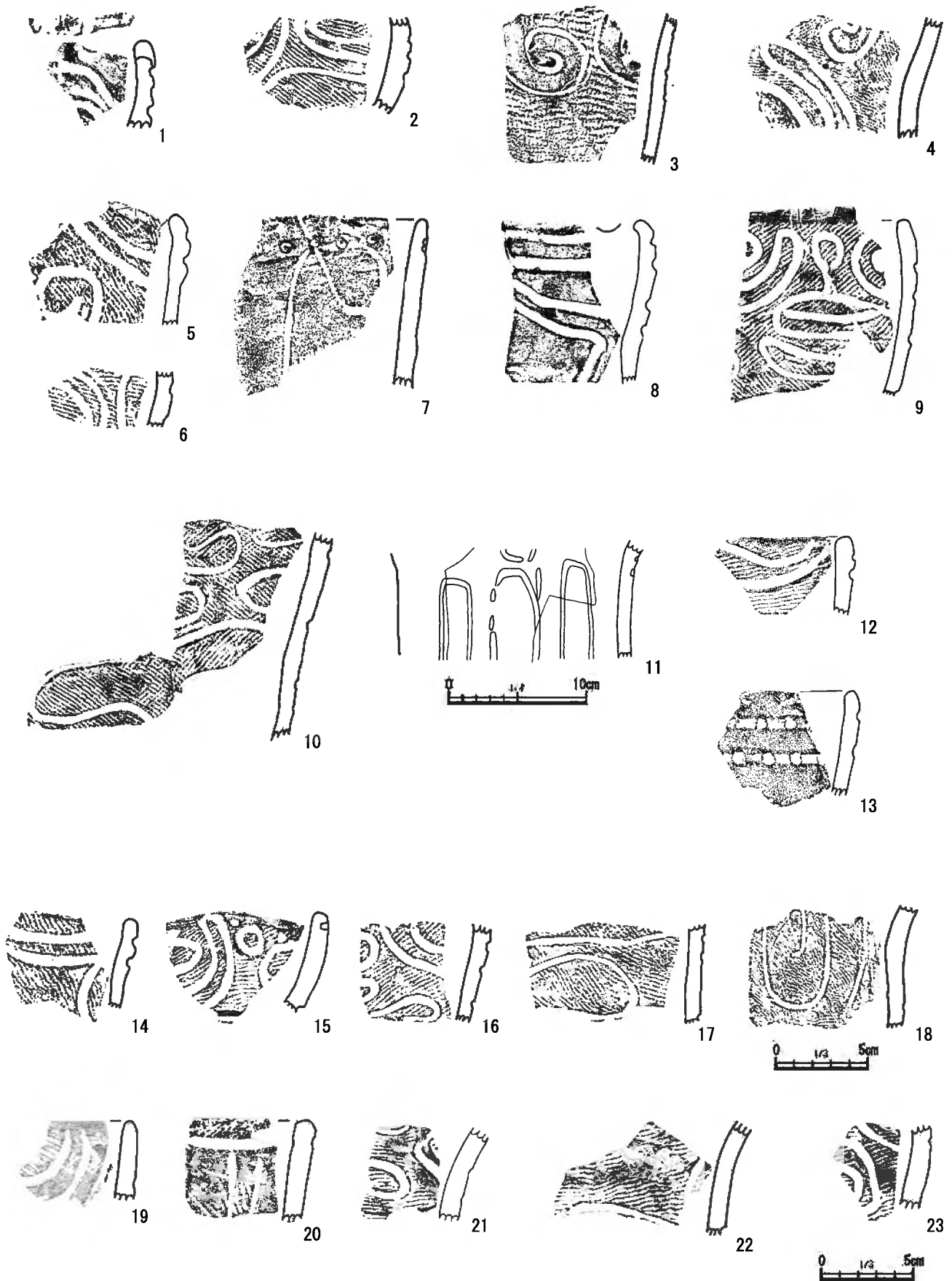
府県名	時期	No.	遺跡名	時 期	石 鏃	磨石類	打製石斧	計	割 合			地域
									石 鏃	磨石類	打製石斧	
岐阜	後半期	32	上原遺跡	中期末	1	0	0	1	100%	0%	0%	I
岐阜	前半期	34	戸入村平遺跡	中期後葉・加曾利E1～E3式・加曾利E1～E2式・中期	70	28	5	103	68%	27%	5%	I
岐阜	後半期	35	上開田村平遺跡	中期末	2	2	7	11	18%	18%	64%	I
岐阜	前半期	36	岩井谷遺跡	中期中葉・中期末葉以前	3	1	0	4	75%	25%	0%	I
岐阜	後半期	36	岩井谷遺跡	中期末葉	0	1	0	1	0%	100%	0%	I
岐阜	前半期	37	小関御祭田遺跡	中期中葉～後葉	1	1	0	2	50%	50%	0%	I
岐阜	前半期	38	庭田遺跡	中期	0	1	0	1	0%	100%	0%	I
岐阜	前半期	39	羽沢貝塚	中期後半	47	26	0	73	64%	36%	0%	I
岐阜	前半期	40	寺田遺跡	船元Ⅱ～Ⅲ式	33	23	5	61	54%	38%	8%	Ⅱ
岐阜	前半期	41	御望遺跡	中期後葉	16	5	0	21	76%	24%	0%	Ⅱ
岐阜	前半期	43	重竹遺跡	加曾利E2式	2	0	0	2	100%	0%	0%	Ⅱ
岐阜	前半期	44	塚原遺跡	加曾利E2～E3式・中富Ⅱ～Ⅳ式・中期前葉・中期前半・中期	9	19	30	58	16%	33%	52%	Ⅱ
岐阜	前半期	47	炬燵遺跡	咲畑a式・里木Ⅱ～Ⅲ式	10	0	2	12	83%	0%	17%	Ⅱ
岐阜	前半期	48	牧野小山遺跡	中富Ⅰ、Ⅱ式・中富Ⅰ、Ⅱ式?・島崎Ⅱ式・縄文時代中期後半	54	8	53	115	47%	7%	46%	Ⅱ
岐阜	後半期	48	牧野小山遺跡	島崎Ⅲ式・島崎CⅢ式・山の神式・取組式	18	2	25	45	40%	4%	56%	Ⅱ
岐阜	前半期	52	宮之脇遺跡 B地点	加曾利E2式・中富Ⅲ式・中富Ⅳ式	65	54	102	221	29%	24%	46%	Ⅱ
岐阜	後半期	52	宮之脇遺跡 B地点	山の神式	0	1	3	4	0%	25%	75%	Ⅱ
岐阜	前半期	53	徳野遺跡	中富Ⅱ式・中富Ⅳ式・神明式・里木Ⅲ式	2	0	4	6	33%	0%	67%	Ⅱ
岐阜	前半期	54	芦戸遺跡	加曾利E4式	0	1	2	3	0%	33%	67%	Ⅱ
岐阜	前半期	55	造道遺跡	中期後半	1	0	1	2	50%	0%	50%	Ⅱ
岐阜	前半期	56	陰地遺跡	曾利Ⅰ式	1	0	3	4	25%	0%	75%	Ⅲ
岐阜	前半期	57	門垣戸遺跡	加曾利E式・井戸尻式	6	0	17	23	26%	0%	74%	Ⅲ
岐阜	前半期	61	阿曾田遺跡	曾利Ⅲ式・中富Ⅲ式・中富Ⅳ式・中富Ⅴ式・中期前半・中期後半	157	6	16	179	88%	3%	9%	Ⅲ
岐阜	後半期	61	阿曾田遺跡	曾利Ⅳ式・曾利Ⅴ式	47	1	4	52	90%	2%	8%	Ⅲ

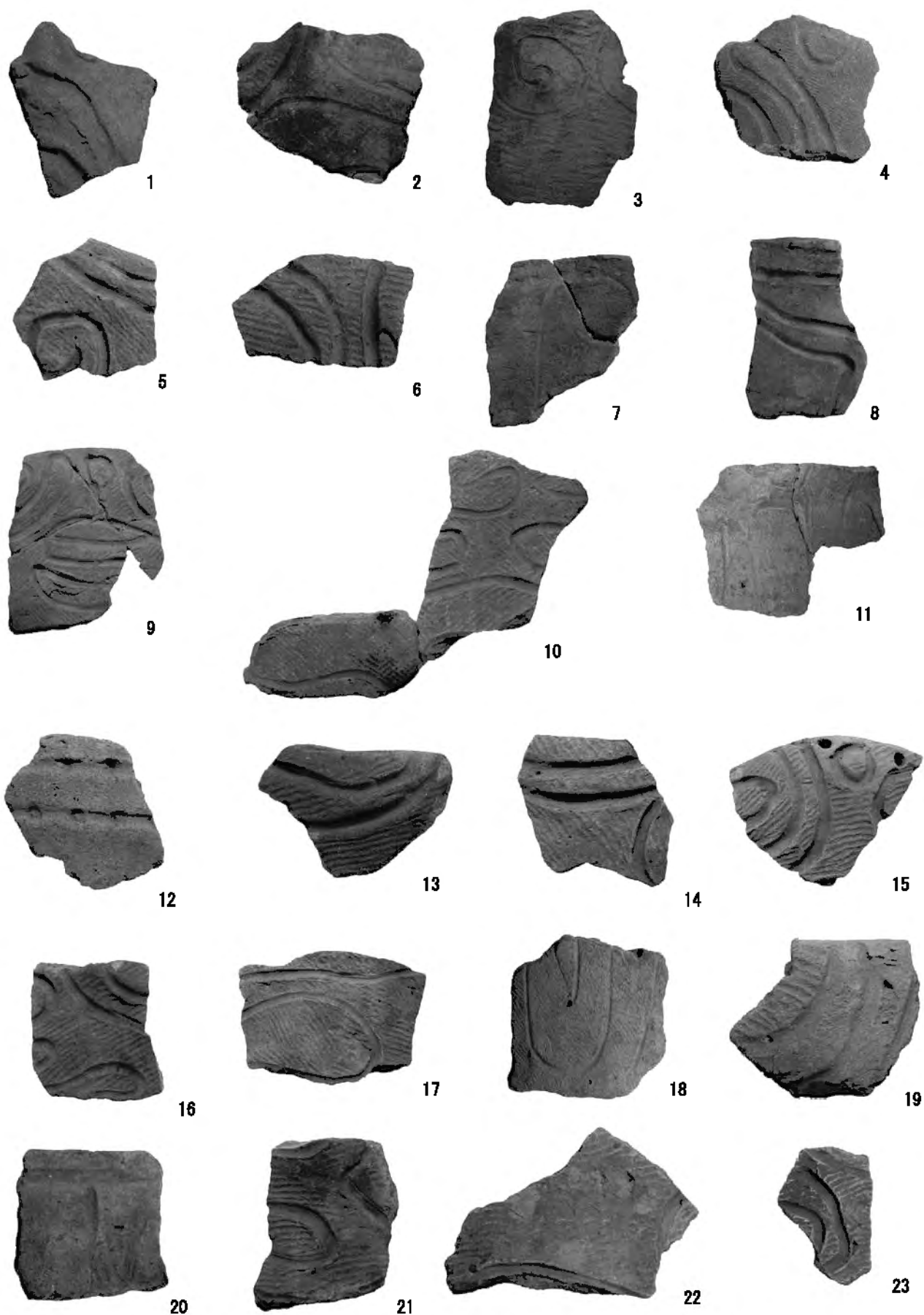
表 5 周辺県域（愛知県）

府県名	No.	遺跡名	時 期	石 鏃	磨石類	打製石斧	計	割 合		
								石 鏃	磨石類	打製石斧
愛知	5	権現山遺跡	後期初頭～前葉（中津式～福田KⅡ式）	5	11	0	16	31%	69%	0%
愛知	30	吉野遺跡	中期末～後期前葉（北白川C式～福田KⅡ式）	19	21	3	43	44%	49%	7%

表 6 後期：周辺県域（岐阜県）

府県名	時期	No.	遺跡名	時 期	石 鏃	磨石類	打製石斧	計	割 合			地域
									石 鏃	磨石類	打製石斧	
岐阜	初頭	5	中野山越遺跡	後期初頭?	0	2	0	2	0%	100%	0%	Ⅳ
岐阜	前半	5	中野山越遺跡	堀之内1～2式並行	2	3	18	23	9%	13%	78%	Ⅳ
岐阜	初頭	6	荒城神社遺跡	後期初頭	14	9	2	25	56%	36%	8%	Ⅳ
岐阜	前半	6	荒城神社遺跡	後期前葉	2	0	0	2	100%	0%	0%	Ⅳ
岐阜	前半	9	たのもと遺跡	後期前葉	9	14	5	28	32%	50%	18%	Ⅳ
岐阜	初頭	10	岩垣内遺跡	中津式・中期末～後期初頭	21	8	7	36	58%	22%	19%	Ⅳ
岐阜	前半	11	垣内遺跡	堀之内1～2式並行	17	94	77	188	9%	50%	41%	Ⅳ
岐阜	前半	14	湯屋遺跡	後期前葉	8	2	4	14	57%	14%	29%	Ⅲ
岐阜	初頭	15	祖師野遺跡	中期末～後期初頭	0	0	22	22	0%	0%	100%	Ⅱ
岐阜	前半	15	祖師野遺跡	中期末～後期前葉	65	15	582	662	10%	2%	88%	Ⅱ
岐阜	初頭	26	戸入村平遺跡Ⅱ	中期末～後期初頭	5	1	4	10	50%	10%	40%	I
岐阜	前半	26	戸入村平遺跡Ⅱ	後期前葉	2	0	1	3	67%	0%	33%	I
岐阜	前半	31	高見遺跡	後期前葉・後期初頭～前葉	3	1	39	43	7%	2%	91%	Ⅱ





参考資料 2 餅ヶ崎遺跡における異質な土器群（紀要 46 号掲載資料）